



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2015年3月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田 1 - 1 0 - 4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



だいぶ暖かくなってまいりました。関東以西の地域では桜も満開とのことです。そんな気候に誘われ、東北のどんぐりたちが発芽しました。今年も活動が始まります。

(目次)

1. 「子どもの森づくり運動」2015年度サポート活動についてのご案内
 2. 「子どもの森づくり運動」全国集会 & 研修会2015 実施レポート
 3. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編⑥（最終回）～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち（特に幼少期の）は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「J P子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「J P園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

（社）全国私立保育園連盟

（社）大谷保育協会

（社）国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

（社）日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

（社）日本オート・キャンプ協会

（株）実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. 「子どもの森づくり運動」2015年度サポート活動についてのご案内

今年も野外での活動シーズンが始まります。事務局（「子森ネット」）では、2015年度も参加園の活動を積極的にサポートしてまいります。下記に活動の普及、広報を目的とした事務局による2015年度のサポート活動を列記しました。

皆様と共に創り上げていく活動です。ご意見、ご要望をお送りいただけますようお願い申し上げます。

1) JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動を継続します。

「東北復興グリーンウェイブ」の活動は、どんぐりを育てる活動を通じて東北の子どもたちと全国の子どもたちが「絆」で結ばれ環境の心の基盤となる「共生の心」を育むことを目的とします。事務局では、環境の時代を生きる子どもたちに「環境心」を育むことがこれからの「子どもの森づくり運動」にとって重要なミッションの一つであると考え活動を継続してまいります。

【「東北復興グリーンウェイブ」第二回植樹会開催概要】

①日時：平成27年5月22日（金）10:00～11:00（開催時間の変更あり）

②会場：岩手県下閉伊郡山田町豊間根178番1（予定）

③内容：全国の参加園から送られてくる東北のどんぐりの苗木を、山田町の三つの保育園の子どもたちが地元の森に植樹します。2014年に植えられ、一年間育てられた苗木の一部を山田町復興エリアに植え替える活動も実施予定。



2) ブロック単位での参加園相互の交流を促進します。

これまでの都道府県単位のフラグシップ園ネットワークが活動の普及、活性化に果たした成果を踏まえつつ、さらなる展開を目指して、北海道、東北、関東・信越、中部・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄のブロック単位で、年に一度程度、参加園相互の交流会を開催します。

3) 「子森通信」をリニューアルします。

月例会報「子森通信」を新年度4月号から、より充実した内容にリニューアルします。

また、これまで原則フラグシップ園に限定してお送りしておりましたが新年度より参加園全園に送付させていただきます。

4) 「子森新聞」を発行します。

メディアや関連団体関係者に向けての情報発信を目的に「子森新聞」を発行します。（春、秋、年二回発行予定）

5) ユーチューブチャンネル「子どもの森づくりチャンネル」（仮称）を開設します。

参加園のイキイキとした活動風景をご紹介するために、ユーチューブにオリジナルのチャンネルを開設します。

今後は、動画での活動レポートも歓迎します。

6) 「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング＆ダンス『♪どんぐりえがお』を積極的に活用します。

事務局では、2015年度も自然体験、及び環境学習をテーマとする様々なイベントや展示会に出展、参加します。その際、効果的な広報活動ツールとして、「東北復興グリーンウェイブ」テーマソング & ダンス『♪どんぐりえがお』を積極的に活用します。



2. 「子どもの森づくり運動」全国集会&研修会2015 実施レポート

2015年2月26日（木）、27日（金）大分県「別府温泉」にて、2014年度の全国集会&研修会が開催されました。一日目は、自然体験活動と環境学習がテーマです。まず、「たかつかさ保育園」園長藤井先生から、『蚕を飼う保育』～E S Dの取組み事例として～をテーマにご講演いただきました。その後、森林レクリエーション協会 柳原インストラクター、及び、子どもの森づくり推進ネットワーク 河内インストラクターによる自然体験、環境学習活動の事例発表が行われました。さらに、今、公益法人に求められつつある地域公益活動をテーマに「三和新琴似保育園」菊地園長による問題提起、それを受けての「青い鳥保育園」岡村園長コーディネートによる活発な意見交換が行われました。二日目は、防災、危機管理がテーマです。「東日本大震災」を釜石市の小学校校長として体験された、「陸中海岸青少年の家」菊池所長さんの基調講演を受けて、当研修会ではおなじみの鎌田インストラクター（タフ・ジャパン代表）による『本当に子どもたちを助けるための』危機管理講座が実施されました。今後の活動に関する有意義な意見交換も行われ、今回も本当に充実した研修会となりました。最後に、阿蘇の共用フィールドに移動し「青い鳥保育園」提供のどんぐりの苗木の植樹体験で研修会を終了しました。2015年度の全国研修会は三重県にて開催予定です。



「たかつかさ保育園」藤井園長基調講演



「森林インストラクター会」柳原氏事例発表



地域貢献活動に関する意見交換会



「陸中海岸青少年の家」菊池所長基調講演



タフ・ジャパン 鎌田代表による危機管理講座

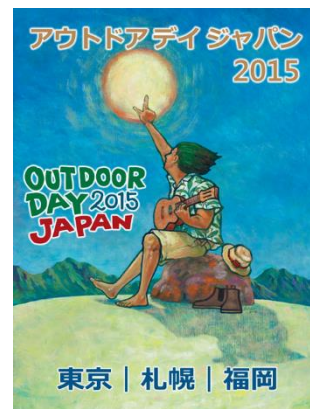


阿蘇共用フィールドにおける苗木の植樹体験

3. 事務局からのお知らせ

1) 「アウトドアディジャパン2015」出展のご案内

- ・開催趣旨：「都心の森で、見て触って体感する日。豊かな自然に感謝しよう。」
 - ・日時：2015年4月4日（土）、5日（日）10:00～17:00
 - ・会場：東京都「代々木公園イベント広場・けやき並木」
 - ・出展内容
 - ①「子どもの森づくり運動」「東北復興グリーンウェイブ」活動紹介パネル展示
 - ②「代々木の森」における森を体感するワークショップ
 - ③「森のはがきづくり」ワークショップ
- *ワークショップはいずれも5日（日）のみ①11:00～、②14:00～開催。
- ・入場、参加費無料



2) 「子森通信」がリニューアルします。

2015年4月号より「子森通信」がリニューアルし、より充実してお届けします。

3) 「第10回ロハスデザイン大賞2015」投票にご協力下さい。

ロハスなヒト、モノ、コトの支援、認定を行っているロハス公式評議団体「ロハスクラブ」が主催し、環境雑誌「ソトコト」が運営する「第10回ロハスデザイン大賞2015」に今年もエントリーします。エントリー内容は、“東北の子どもたちと、全国の子どもたちをどんぐりの絆で結ぶ”『東北復興グリーンウェイブ「どんぐりの絆BOX」』です。カテゴリーは「モノ」です。審査はホームページからエントリーできる個人メンバーの投票によって行われます。お手数ですが、以下のホームページからご登録いただき投票にご協力いただけますようお願い申し上げます。*ロハスデザイン大賞公式ホームページ⇒<http://www.lohasclub.jp/>

4) 参加園情報をお送り下さい。

保育新制度に伴い、園名等が変更された参加園におかれましては、事務局宛新園名等をお知らせいただけますようお願い申し上げます。

●どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編⑥（最終回）～

4月号からの「子森通信」のリニューアルに合わせ、育苗講座も心機一転、新シリーズで連載を始めることとなります。そのためこの安全編の連載は、今回で一度終了とします。最後のお題は、野外活動でのやっかい事、「虫対策を意識していますか？」です。どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



自然体験活動が充実しているドイツなどの欧州と、日本の自然を比べた際、その大きな違いは、雨の量と虫の多さだと思います。これらは野外活動においてマイナス要因です。虫に関しては、先月、九州で行われた子森研修会で、森の体験活動についてお話頂いた森林レクリエーション協会の柳原高文先生もふれていました。さらに昨年は、蚊を媒介としたデング熱の流行や、マダニによるウイルス感染症での死亡事例などの報道があり、例年以上に、虫対策に気をつけ無ければならない春を迎えたと言えます。虫への対策は、言い古されたことですが、「長袖・長ズボンなどで肌の露出を避ける」。場合によっては「手袋の使用」。休憩や食事の際は、「地面や草原に直接腰を下ろさず、レジャーシートなどを用いる」。それと「虫除けスプレーなどの薬品の使用」などです。さらに刺された場合は、「速やかな病院への受診」が必要な場合が出てきます。しかし、虫対策に過敏に成りすぎると、子どもたちの伸び伸びとした活動を阻害することになり、悩ましいです。身近なところにウイルスを媒介する虫などの危険が増えている事実はしっかり認識して、野外に出かける際には虫対策を実施して下さい。でもあまり神経質にならないで、子どもたちが野外で得られる開放感を損なわないように、バランスを取りたいものです。迎える新年度も、安全で楽しい自然体験や野外活動を、園児達と一緒にたくさん出来ることを願っています。